

財政状況等一覧表（平成21年度決算）

(単位:百万円)

団体名 風間浦村

普通収入増補	普通交付税額	臨時財政対策 債交付増補	繰上財政債
A	B	C	A+B+C
173	1,173	106	1,453

1. 一般会計等の財政状況

①

(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等から の繰入金	地方債(現在高)	債務負担行為に基づく支出予定額	備考
一般会計	2,588	2,539	50	40	74	3,022	0	
一般会計等	2,588	2,539	50	40		3,022	0	実質赤字額

②

③

④

⑤ (= -②)

※「一般会計等」の数値は、各会計間の繰入・繰出などを控除(純計)したものであることから、各会計間の合計額と一致しない項目がある。

※②が負数の場合のみ

2. 公営企業会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足 額(実質収支)	他会計等から の繰入金	企業債(地方 債)現在高	左のうち一般会計 等繰入見込額	備考
簡易水道特別会計	126	126	0	0	68	785	563	
国民健康保険特別会計	372	336	36	36	39	0	0	
介護保険特別会計	366	352	14	14	71	0	0	
後期高齢者医療特別会計	28	28	0	0	19	0	0	
老人保健特別会計	7	4	2	2	0	0	0	
公営企業会計等 計				53			563	連結実質赤字額

⑥

⑦

⑧ (= -(②+⑥))

(注) 1. 法適用企業とは、地方公営企業法の全部又は一部を適用している公営企業である。

※②+⑥が負数の場合のみ

2. 法適用企業会計以外の特別会計については「総収益」「総費用」「純損益」の欄に、それぞれ「歳入」「歳出」「形式収支」を表示している。

3. 「資金剰余額/不足額(実質収支)」は、地方公共団体財政健全化法に基づくものであり、資金不足額がある場合には負数(△～)で表示している。

4. 「左のうち一般会計等繰入見込額」は、企業債(地方債)現在高のうち将来負担比率に算入される部分の金額である。

3. 関係する一部事務組合等の財政状況

(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足 額(実質収支)	左のうち一般会計 等繰入見込額	他会計等から の繰入金	企業債(地方 債)現在高	左のうち一般会計 等繰入見込額	備考
一部事務組合下北医療センター	11,996	11,575	421	△ 5,226	519	0	7,958	217	法適用
下北地域広域行政事務組合	6,443	6,374	69	69	0	45	6,983	262	
青森県後期高齢者医療広域連合会(一般会計)	547	475	71	71	0	55	0	0	
青森県後期高齢者医療広域連合会(特別会計)	136,203	132,955	3,248	3,248	0	3,233	0	0	
青森県市町村総合事務組合	811	792	19	19	0	6	0	0	
青森県交通災害共済組合	220	192	28	28	0	0	0	0	
青森県市町村職員退職手当組合	14,983	14,649	335	335	0	0	0	0	
一部事務組合等 計				△ 1,456	519		14,941	479	

⑨

⑩

4. 地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況

(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は 正味財産	当該団体から の拠出金	当該団体から の補助金	当該団体から の貸付金	当該団体からの 債務保証	当該団体からの 繰上預り金	一般会計等 負担見込額	備考
地方公社・第三セクター等 計									

⑪

(注) 損益計算書を作成していない社団・財団法人は「経常損益」の欄には当期正味財産増減額を表示している。

5. 充当可能基金の状況

(単位:百万円)

充当可能基金名	平成20年度 決算A	平成21年度 決算B	差引 B-A
財政調整基金	38	55	17
減債基金	0	0	0
その他充当可能基金	1,103	1,081	△ 22
充当可能基金計	1,141	1,136	△ 5

⑫

(注)「充当可能基金」とは、基金のうち地方債の償還等に充当可能な現金、預金、国債、地方債等の合計額をいい、貸付金及び不動産等を含まない。

6. 財政指標の状況

(単位:%(財政力指数を除く))

財政指標名	平成20年度 決算A	平成21年度 決算B	差引 B-A	早期健全化 基準	財政再生 基準	資金不足比率 (公営企業会計)	平成20年度 決算A	平成21年度 決算B	差引 B-A
実質赤字比率 (赤字の場合「△」)	2.31	2.77	0.46	△ 15.00	△ 20.00	簡易水道特別会計	2.4	0.2	△ 2.2
連結実質赤字比率 (赤字の場合「△」)	4.97	6.38	1.41	△ 20.00	△ 40.00				
実質公債費比率	17.8	16.2	△ 1.6	25.0	35.0				
将来負担比率	143.9	115.5	△ 28.4	350.0					
財政力指数	0.12	0.11	△ 0.01						
経常収支比率	93.0	88.2	△ 4.8						

- (注) 1. 「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「資金不足比率」は負数(△～)で表示しており、収支が黒字の場合には便宜的に当該黒字の比率を正数で表示している。
 2. 早期健全化基準に相当する「資金不足比率」の「経営健全化基準」は、公営競技を除き、一律 △20%である(公営競技は0%)。
 3. 「資金不足比率」について、事業の規模が零となる場合には、「※」で表示している。
 4. 「早期健全化基準」及び「財政再生基準」は平成21年度決算による基準である。

【参考】健全化判断比率(実質公債費比率を除く)の算定方法

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{実質赤字額} \text{ ⑤}}{\text{標準財政規模} \text{ ①}}$$

$$\text{連結実質赤字比率} = \frac{\text{連結実質赤字額} \text{ ⑧}}{\text{標準財政規模} \text{ ①}}$$

$$\text{将来負担比率} = \frac{\text{将来負担額} \text{ ⑬} - \text{充当可能財源等} \text{ ⑭}}{\text{標準財政規模} \text{ ①} - \text{算入公債費等の額} \text{ ⑮}}$$

・将来負担額 = ③ + ④ + ⑦ + 退職手当負担見込額 + ⑧ + ⑨ + ⑩ + ⑪ + 公的信用保証等に係る損失補償見込額 (百万円)

5,243

⑬

・充当可能財源 = 充当可能基金 ⑫ + 充当可能特定歳入 + 基準財政需要額算入見込額 (百万円)

3,928

⑭

・算入公債費等の額 = 315 (百万円)

⑮